

## 委員からの追加意見一覧

No.	部門	委員によるご意見
1	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(高井委員) 災害時の緊急情報発信については、携帯電話の基地局が被害を受けることもあるので、防災行政無線の有効活用は欠かせないと思う。
2	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(高井委員) 災害時に大きな力になるのは若年層であり、特に中学生は日中も主に市内で活動している世代であることから、災害対策に協力してもらうことは有効であると思う。
3	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(三輪信哉委員) 枚方市では、全小学校区に自主防災組織が整い、地域防災の中心となる人材を育てるとともに、学校施設などを拠点に充実した防災訓練を行っていると聞いている。市民が防災意識を高め、より防災訓練に参加してもらうには、参加することでの楽しみなどの仕掛けづくりを検討する必要があると思う。
4	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(小原委員) 地域防災推進員については、人数を増やしていくことも大事だが、現在の推進員が引き続き取り組みを充実できるようフォローしていくことも大切である。
5	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(小原委員) 自主防災訓練は、同じ訓練だけでは飽きてくる。また、校区単位だけでなく、より細分化し、自治会単位で行うことも必要だと思う。
6	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」「子育て」	(富岡委員) 各部門の記載方法で、ストーリーがわかるように整理できればよいと思う。例えば、「防災」部門では、現状を認識した上で、計画をつくり、それに基づいて平常時の訓練を実施し、いざ災害が起こったら対応に取り組むという流れがある。また、「子育て」部門では、出産前、出産直後、就学前の子育て期、学校教育というように、流れが見えてくれば、わかりやすくなると思う。これは、計画の本書ではなくても、概要版やパンフレットなどで示すのもよいと思う。
7	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「災害医療」	(高井委員) 災害が起こった後、食料や物資の調達・提供も大切だが、避難所で中長期間、生活していくためには、避難者のこころのケアが重要である。
8	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「住環境」	(富岡委員) 「住環境」という言葉は、道路や公共交通も含むすごく広い意味合いが感じられるが、内容を見ると「宅地環境」ぐらいの中身だと思う。今後、各部門を示す表現を考えていく際に、検討すべき事項だと思う。

No.	部門	委員によるご意見
9	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(北川委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「民生委員」の取り組みがあるが、主体が少し限定的に感じる。
10	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「妊娠・出産」	(伊東委員) 児童虐待やニート、DVなど様々な社会問題が起こっているが、起こった後に対応することも必要だが、人が生まれる前の妊娠期や成長していく子育て期からの事前の対策が大切で、良い親子関係を築くことが重要だと思う。特に、産前期において、母親が子育てについて気軽に学べる機会の充実などは必要だと思う。
11	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」で、美術館の整備があるが、基本計画の期間を踏まえると、整備した美術館を活用しながら、文化芸術に触れる機会を充実していくことが取り組みになると思う。
12	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(宮原委員) 「取り組みの方向」で、「人々が集り交流し、～」とあるが、基本目標では「集い」という表現を使っているので、統一した方がよいと思う。
13	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(谷本委員) 基本構想の基本目標では、「中心市街地の活性化などにより、人々が集り交流し、様々な活動が活発に展開される拠点づくりを進める」とあり、核となる拠点が枚方市駅周辺以外にも示せたらよいのではないかと。
14	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(宮原委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「清掃ボランティア等の活動」とあるが、内容がわかりにくいので、表現を工夫すべきである。
15	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」で、「歴史や文化などの観光資源の情報発信の強化」とあるが、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄の記載に比べて具体性がないので、整合を図るべきである。
16	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(三輪敦子委員) 枚方市の歴史文化遺産のほか、特に枚方宿地区などを効果的に発信すれば、多くの観光客を呼び込める可能性があるため、もっとPRしていくべきだと思う。

No.	部門	委員によるご意見
17	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」 「産業」	(橋本委員) 「観光・交流」部門で、「国内外」や「地域内外」という表記、また、「産業」部門で、「事業者」や「事業所」という表記があるが、使い分けについて整理すべきである。
18	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(谷本委員) 地元の大学生が地元企業へ就労し、市内に定着するための取り組みの視点を組み込んでよいと思う。
19	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(橋本委員) 「行政の主な取り組み」で、就労相談の支援などだけでは取り組みが薄いように思う。市民ニーズが高い部門でもあるので、就労支援の視点で他に取り組みがあれば記載すべきである。
20	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(加藤委員) 地域の活性化に貢献するコミュニティビジネスへの支援が重要だと考える。また、現在、商店街への補助金などの支援は実施しているようだが、商店街の組合に入っていないような個人の小規模店舗（雑貨・カフェなど）などにも何らかの対策ができないものか。大阪市内では、路地裏の古い民家をリノベーションした雑貨店、カフェ、ギャラリーなどが増えつつあり、賑わいが生まれている。
21	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(谷本委員) 現在、市内で事業を行っている事業者に対する操業環境を維持、改善していく視点も必要ではないか。例えば、道路環境や浸水対策なども大切だと思う。
22	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(橋本委員) 「取り組みの方向」で、「医療分野など本市の特色を生かした産業の創出に向けた取り組みを進めます」とあるが、これに応じた取り組みが書かれていないので、記載すべきである。
23	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「新規事業に関心を持ち、創業する人を応援」や「事業者は、競争力向上のため自ら商品開発などに取り組むこと」とあるが、少し書き過ぎのような気がする。

No.	部門	委員によるご意見
24	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(岡田委員) 食農教育や市民農園、地産地消の推進については、農業生産者による提供・発信の取り組みが必要となる一方で、市民の健康意識の向上や生きがいづくり、学校教育などの取り組みが連動しながら進んでいくものだと思う。
25	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(橋本委員) 事業者の取り組みとして、食の安全のために成分を正しく公表していくことも大切だと思う。
26	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「大学連携」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「事業者は、大学との連携を推進」とあるが、具体性がないように思う。
27	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「自然環境保全」	(三輪信哉委員) 枚方市の穂谷地区は、枚方市の貴重な財産であり、自然環境の保全に向けて大切にすべきものだと思う。
28	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「情報発信」	(橋本委員) 「行政の主な取り組み」に、シティプロモーションとあるが、わかりやすくするための用語説明が必要だと思う。
29	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「広聴」	(本田委員) 子育て世代などは様々な意見を持っていると思うので、市役所に対して気軽に意見できるように広聴機能を充実することが必要である。また、そういった意見から色々なアイデアが生まれるかもしれないし、それを施策に活用することができればよいと思う。
30	(行政運営：効率的な市政運営)	(榮野委員) 基本構想で記載した、成長を前提とした拡大型の施策展開の見直しの視点については、「効率的な市政運営」などの項目で、基本計画にも明記すべきだと思う。
31	(行政運営：効率的な市政運営)	(谷本委員) 行政運営の「効率的な市政運営」などの項目では、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載はないが、市民などは市の運営に関心を持つことが大切だと思う。

No.	部門	委員によるご意見
32	(行政運営：効率的な行政運営) 「組織運営」	(加藤委員) 複数の部門にまたがるような取り組みをどう示していくか検討しなければならない。また、そういった取り組みを担う行政の組織体制を構築するためには、組織を越えた連携ができる仕組みづくりが必要である。
33	(行政運営：効率的な市政運営) 「組織運営」	(橋本委員) 部門をまたがる横断的な取り組みが重要となる中で、「組織運営」の部門の具体的な事業例に、「組織横断的な課題への対応を図る総合調整機能の充実」とあるが、その考え方が大きなポイントになると思う。
34	部門共通	(北川委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載内容は、全体的に各主体が義務のように受けてしまう感じがする。例えば、「期待する主な取り組み」などにすれば、受け入れやすいのではないか。
35	部門共通	(小原委員) 最初から「防災」の部門など暗いイメージを出すのではなく、芸術やスポーツなど、癒しの部門を前に出していく方がよいと思う。
36	部門共通	(角野委員) この計画の実現主体を「市民等」とするのであれば、市民等が計画の方向性を理解できるよう、各分野の「取り組みの方向」の内容をもう少し具体的に記載した方がよい。また、市民参加という視点で考えると、市民一人ひとりの主体性が発揮できるような内容に整理してもらいたい。 あわせて、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載内容のバランスが悪いので、こちらも整理する必要がある。
37	部門共通	(高井委員) 様々な社会問題がある中で、安心して暮らせるまちをつくるためには、環境が良い地域や悪い地域といった格差を生みださないようにすべきである。
38	部門共通	(本田委員) 読み手に興味を持ってもらうためには、総合計画の冊子の導入部分に特徴を持たせたり、各ページの情報を直感的にわかりやすくするなどの工夫が必要だと考える。例えば、各部門の課題の根拠となる数字を示す方法として、インフォグラフィック（データをイラストやグラフを使って視覚的に表現したもの）などの手法を取り入れてみてはどうか。
39	部門共通	(後閑委員) 現状を示すため、グラフなどにより数値を記載する際には、実態を正確に示すものはいいが、いじめや虐待など潜在的な件数があるものは注意が必要だと思う。

No.	部門	委員によるご意見
40	「指標」について	(本田委員) 指標について、基本計画の期間が12年間と長いため、目標値を示すのは難しいかもしれないが、実行計画において4年ごとの目標値を設定して進行管理することも一つの方法かもしれない。
41	「重点化すべき取り組み」について	(富岡委員) 今後のまちづくりを進める上で、「市民参加」の考え方は欠かせない。今後、市民のまちづくりへの参加を促進できる仕組みづくりが重要になってくる。
42	「重点化すべき取り組み」について	(三輪信哉委員) 今後、自治体の財政が縮減していく中で、暗いまちではなく、活気あるまちにしていくには、市民力を向上させることが重要で、重点的な取り組みとしては不可欠である。その中で、行政は先進事例などの情報を集積している組織として、市民をリード、又は後押しする役目を果たす必要がある。
43	「重点化すべき取り組み」について	(後閑委員) 全ての取り組みにおいて、住民参加が必要だと思う。地域力を高めていくために力を発揮してもらい、多様な担い手がパートナーとしてまちづくりを進めていく必要がある。
44	「重点化すべき取り組み」について	(加藤委員) 今後、少子高齢化・人口減少に伴う税収減などにより厳しい財政状況が予測されることから、新たな総合計画では、市民等との協働のつながりを各部門に散りばめていくことが必要だと考える。 また、重点化という部分では、委員からも多くの意見が示されている世代間交流がキーワードになってくるのではないかと。
45	「重点化すべき取り組み」について	(嶋田委員) 地域住民のまちづくりへの参加がますます重要になってくると思う。特に、若年層の参加が大切で、そのためには、中学生で言えば塾やクラブと同様に、地域貢献活動を行った対価が必要になると思う。また、地域のつながりを深めていくことも重要で、世代間交流の場をつくれるよう、地域の祭りなどその仕組みを行政と地域コミュニティなどが連携して進める必要があると思う。
46	「重点化すべき取り組み」について	(角野委員) 「世代間交流」は理想的ではあるが、市民一人ひとりがばらばらのままで世代を縦につなごうとしても厳しい。まずは、横のつながり、つまり同世代のつながりを強くする。横のつながりは日常的に機会がないと継続しないが、それができて初めて各世代を縦につなぐことができる。それが世代間交流の第一歩になると考えるが、縦につなぐ機会づくりは行政の役割ではないか。手法の一例としては、地域のまつりなどが考えられる。そういった取り組みの下支えを行政ができればよいのではないかと。

No.	部門	委員によるご意見
47	「重点化すべき取り組み」について	<p>(角野委員)</p> <p>今後のまちづくりには「市民参加」が欠かせないと思うが、そのためには、市民の能力を引き出し、まちづくりのステージに引っ張り上げることが必要である。ターゲットは、時間と能力を持っている高齢者。高齢者の社会参加が進めば、世代間交流にもつながるのではないかと。</p> <p>また、高齢者など市民の能力を引き出し発揮する機会づくりも必要である。それに関する部門としては、大学連携、生涯学習、観光・交流などの部門があげられる。</p>
48	「重点化すべき取り組み」について	<p>(三輪敦子委員)</p> <p>重点化すべき取り組みとしては、市民のまちづくりへの参加や子育て、健康分野などになってくると思うが、市民参加を進めていくためにはその拠点が必要で、特に今後、小学校の校舎の活用は市民の結節点として有効だと思う。市民参加の場として、また、健康づくりや子育て支援などの場に活用していくべきだと思う。</p>
49	「重点化すべき取り組み」について	<p>(小原委員)</p> <p>あらゆる部門において、人と人との結びつき、心と心のつながりが何より大事だと思う。</p>
50	「重点化すべき取り組み」について	<p>(伊東委員)</p> <p>安心して妊娠・出産・子育てができる環境をつくること、互いに助け合う人々を生み出し、また、枚方市で子どもを産み育てたいと思う人を呼び込むことにつながると思う。</p>
51	「重点化すべき取り組み」について	<p>(富岡委員)</p> <p>将来のまちづくりの担い手は子どもたちであるため、「子育て」「教育」の取り組みは重要と考える。高齢者がますます増えてくる時代となるが、子どもたちとの交流により元気になることもある。子どもが核となって、周りの人も関心をもち、助け合いの気持ちを醸成していくことにもなると思う。</p>
52	「重点化すべき取り組み」について	<p>(高井委員)</p> <p>枚方市は医療体制が整っており、子育てしやすいまちという印象があり、その長所をのびしていくべきだと思う。また、そうした施策が市民に十分に伝わっていないように感じるので、より効果的に情報発信することが重要だと思う。</p>
53	「重点化すべき取り組み」について	<p>(本田委員)</p> <p>枚方市の特徴であるベッドタウンということをも前提として考えると、やはり子育て世帯が住みたいと思えるまち、子育てがしやすいまちにすることが必要である。また、高齢社会への対応として、高齢者施策も重要である。</p> <p>就労、雇用面では、枚方で働きたいと思えるような環境整備も重要な取り組みだと思う。</p>

No.	部門	委員によるご意見
54	「重点化すべき取り組み」について	(後閑委員) 健康づくりに関する施策は重要だと考えており、病気になる前の取り組みが大切で、特に働き盛りの壮年期世代の健康増進が必要である。その視点は基本構想にも抜け落ちていると思うので、整理が必要だと思う。 そのほか、防災・防犯など、広く「安全」対策は重要だと思う。
55	「重点化すべき取り組み」について	(岡田委員) 市民が健康に暮らしていくことは非常に重要だと思う。農協においても、「JA健康寿命100歳プロジェクト」として、100歳まで農作業ができるよう心と体の健康づくりのため、「食事」「運動」「健診・介護・医療」を中心にゆとりと生きがいのある暮らしに取り組んでいる。
56	「重点化すべき取り組み」について	(三輪信哉委員) 人口減少が進む中、人を呼び込むような魅力あるまちにしていくためには、自然環境やまち並みの景観など、中心市街地を含めた市域の美しい環境が整うまちづくりが必要だと思う。
57	「重点化すべき取り組み」について	(橋本委員) 今後、人と人とのつながりがますます重要となる中で、一人ひとりの人権意識の向上が必要だと思う。また、防災、教育、健康、環境、就労などの部門も重点化していくべきだと思う。
58	「重点化すべき取り組み」について	(北川委員) 枚方市は、住むまち、暮らすまちという感じがするので、それを念頭に置いた施策を進めていくべきだと思う。そうなれば、防災や医療など様々な部門が関係してくることになる。
59	「重点化すべき取り組み」について	(榮野委員) 重点化すべき取り組みについては、現行の総合計画やこれまで進めてきた市の強みを生かした施策展開も踏まえながら、検討していくべきだと思う。
60	「重点化すべき取り組み」について	(三輪敦子委員) 現在、枚方市が持っている強みを伸ばしていく観点で、重点的に取り組む施策を検討していく必要がある。 特に、安心して子どもを産める環境を発信していけば、枚方に来て出産する人も増えてくるのではないかな。
61	「重点化すべき取り組み」について	(谷本委員) 現在進めている幹線道路などのインフラ整備を計画的に進め、住環境を充実させることが重要だと思う。また、少子高齢化が進む中、子育てに対する取り組みや、買い物支援などによる高齢者支援が重要になってくると思う。 また、医療や大学などは枚方市の強みであると思うので、そのネットワークを生かした取り組みを進めていくべきだと思う。